

第21期北九州市青少年問題協議会 第1回会合 会議録

1 日 時 平成26年7月25日(金) 14:00～15:55

2 場 所 西日本総合展示場(AIMビル)314会議室

3 出席者

委 員 河嶋委員、野口委員、三浦委員 他14名

オブザーバー 福岡県警察本部生活安全部少年課、福岡家庭裁判所小倉支部、小倉少年鑑別支所、福岡保護観察所北九州支部

事務局 工藤保健福祉局長、窪田子ども家庭局長、岩淵教育次長 他

4 次 第

- ・子ども家庭局長あいさつ
- ・委員及びオブザーバーの紹介
- ・会長・副会長選出
- ・議 題

議題1 青少年対策の課題と北九州市の対応

議題2 「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部事業

5 議事概要・主な意見

○ 会長・副会長選出

事務局より、会長に河嶋委員、副会長に野口委員、三浦委員を推薦し、委員の承認を得た。

○ 議 題

議題1 青少年対策の課題と北九州市の対応

(委 員)

ユースステーションが効果を上げているとのこと。こういった施設が各区にあれば、若者たちの居場所として機能し、もっと有効だと思う。貸し館的なものではなく、若者と一緒に体験活動を計画したり、若者の自立を支援するような専門的な知識・技術を備えたユースワーカーの配置が課題だと思う。

議題2 「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部事業

(委員)

立ち直り支援について、北九州市の安全・安心のためには、働く場所の提供が全てだと思う。また、北九州市は中学生女子の妊娠が多かったと思う。これが犯罪・事件につながると思うが、これについて、行政はどのような数字をつかんでいるか。

(事務局)

青少年課で把握している数字で回答させていただく。少し古いですが、平成22年北九州市の人工妊娠中絶件数295件、1.32%に対し、全国が20,357件、0.69%と、全国平均の倍近い割合で推移している。本市としては、小・中学校で思春期保健健康教室を実施し、命の大切さや、性に対する心構え等について、助産師さんから話をしている。

(委員)

保護司として薬物使用歴のある方を一人担当しているが、保護観察期間が終わると検査をしなくなり、また暴力団と関わりを持つ危険性が高くなるように思う。その辺について、推進本部として、今後対策を検討しているか。

(事務局)

それについては、司法機関と保健福祉の機関とが連携する必要があると考え、保護観察期間中から精神保健福祉センターのプログラムに参加する取組をしているが、それでも保護観察が終了すると来なくなることもある。努力していきたい。

(委員)

薬物、ギャンブル依存等の相談窓口についての連絡先と、北九州SHARPプログラムについて教えてほしい。

(事務局)

相談窓口は、精神保健福祉センター、電話：522-8729（予約制）。本人でなくとも、困っている家族の方も相談できる。また、状況により家族教室をご案内することもある。ホームページ「いのちとこころの情報サイト」にも掲載しているのでご覧いただきたい。

SHARPプログラムは、全国13~20くらいの保健福祉の施設で行われている、覚せい剤を中心とした依存者当人を対象としたプログラムで、認知行動療法をベースとし、当事者が勉強しながら仲間と支え合っていくもの。今年度も8月頃からの開始を予定しているが、事前に精神保健福祉センターにご相談いただきたい。

(委員)

十数年前から、生徒指導の会議に行くたびに、シンナーによる検挙数は福岡県が日本一で、

その中でも北九州が一番多いと言われてきた。それが0になったというのが本当に素晴らしいと思う。シンナーが危険ドラッグにシフトしたと捉えてよいのか。

(事務局)

立証不可能だが、見通しとしてはそのように考えている。今の若者の現状として、大麻や危険ドラッグに対するファッション感覚の傾向が見受けられ、さらに、大麻や覚せい剤と、効果は同等だが危険ドラッグは違法ではないと捉えているようである。

(委員)

対処療法的なものではなく、できればもう少し予防的な取組ができないか。3～6歳の時点で、16、17歳時に非行に走るかどうかがわかるというアメリカの研究発表もあるように、もっと、家庭教育との連携というところでの啓発活動があると、違ってくるのではないかと思う。プラスアルファでそういった啓発活動もあればいいかな、と思い発言させていただいた。

(委員)

「立ち直り支援」対策部会のところに、「女性向けの職種が少ない」とあるが、介護施設の仕事などは、女性に向いているのではないかと思う。

(事務局)

実際に活動されている協力雇用主や業界団体等にご推薦いただきながら、そういった業務も開拓していきたい。